

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2023 年度事業計画

<基本方針>

助け合い支え合う地域社会を みんなの力で

<課題>

1. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます
3. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化をはかります

I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

1. ボランティア活動助成

(1) 募集および申請状況

募集に関する広報は、当財団ホームページ、コープこうべ組合員向け機関紙「きょうどう」などで行いました。また、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、申請状況は下記のとおりです。

県内 10 会場と 2 回のオンラインで開催した助成金説明会では、当財団の成り立ちや、助成の目的、特徴を理解いただいた上での申請をお願いしています。内容の説明と併せて、特に、活動計画と予算書の整合性など申請書の書き方に重点を置いた説明を行った結果、わかりやすいとの評価をいただきました。また説明会の後半に参加グループ同士の紹介・交流の時間を設け、ネットワークづくりの場としました。なお、今回の説明会については、申請される全団体に対して参加を必須としました。

	申 請 (グループ数 / 金 額(円))	助 成 (グループ数 / 金 額(円))
福祉等	204 / (55) 29,932,000	189 / (54) 13,616,400
環境	20 / (5) 2,837,000	17 / (4) 1,383,600
合計	224 / (60) 32,769,000	206 / (58) 15,000,000

() 内数字はきらり助成数で内数

(2) 選考について

①助成検討委員の構成

2023年度助成検討委員は、資料2-1のとおりです。

②選考基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の選考基準を記載し公開しています。

◇活動の公益性・必要性：公益性、必要性、地域貢献

◇活動の効果や継続・発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力、連携

◇活動の実現可能性：実効性、計画性

◇費用の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力

◇循環型のしくみへの理解

③選考方法

助成検討委員には、選考基準に基づいて評価いただき、その評価点を事務局で集約しました。助成検討委員会（3月2日に環境分野、2月28日・3月3日に福祉分野開催）では、その結果と、2023年度の助成予算を勘案しながら討議し、助成案をまとめました。なお、昨年度からより論議を深め、助成団体への提言等をいただくことを目的とし、福祉分野を福祉とそれ以外の2分野に分けて選考および検討委員会を開催しています。

2023年度ボランティア活動助成は、2018年度から開始した少額助成「きらり助成」（上限1.5万円の助成）と、「ともしび助成」（上限30万円の助成）の2つの枠組みで募集を行いました。「きらり助成」については、コープこうべ地区本部長による選考会で第1次選考の後、助成検討委員会で協議しました。「ともしび助成」は助成検討委員会で選考、助成案をまとめました。

(3) 2023年度の申請状況

2023年度は過去最高の申請件数であった2020年度(コロナ前)を上回る申請がありました。

新規申請状況についてもコロナ前の申請数とほぼ同じ状況まで回復しています。

年度	申請件数						
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
福祉	146	175 (35)	169 (51)	198 (72)	140 (53)	170 (52)	204 (55)
環境	37	26 (2)	24 (2)	19 (3)	20 (4)	16 (3)	20 (5)
合計	183	201 (37)	193 (53)	217 (75)	160 (57)	186 (55)	224 (60)

※（ ）内はきらり助成数で内数

年度	上記のうち、新規申請件数						
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
福祉	42	65	50	64	22	41	58
環境	7	5	6	3	6	3	5
合計	49	70	56	67	28	44	63

助成年度	平均申請額 福祉分野	平均申請額 環境分野	申請件数 全体	平均申請額 全体
2015	82,084	58,893	183	78,505
2016	91,230	88,417	188	90,691
2017	94,308	91,135	183	93,667
2018	86,197	100,692	201	88,072
2019	78,751	104,875	193	82,000
2020	78,590	96,526	217	80,161
2021	80,471	124,350	160	85,956
2022	113,647	120,563	186	114,242
2023	146,725	141,850	224	146,290

※2018年度から新設した「きらり助成」の新設により、平均申請金額は減少傾向にありましたが2021年度はコロナの影響により「きらり助成」の申請が減ったため、平均申請金額は増加しました。2022年度は食材費の申請を可能としたため、上限額まで申請する団体が増え、さらに2023年度は、外注費・学習費・レンタル費を助成対象としたためさらに平均申請金額が大きく増加しました。

(4) 2023年度助成

分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	41	1,846,800	12.3
		障がい者	24	1,182,000	7.9
		青少年	1	154,000	1.0
		子ども(親子)	9	892,000	5.9
		地域住民	19	1,304,000	8.7
		施設・病院	2	21,600	0.0
		外国にルーツを持つ住民	1	49,000	0.3
		その他	10	890,000	5.9
		合計	107	6,339,400	42.3
②	まちづくり		8	671,000	4.5
③	防災・減災		4	303,000	2.0
④	人権		1	90,000	0.1
⑤	多文化共生・多世代交流		13	1,078,000	7.2
⑥	子ども育成		45	3,725,000	24.8
⑦	食と農		4	605,000	4.0
⑧	環境		17	1,383,600	9.2
⑨	その他		7	805,000	5.4
合計			206	15,000,000	100.0

「環境」分野については、2004年度より、コープこうべの買い物袋代金からの寄付を活用し、環境分野の助成検討委員会を設置し選考しています。

2023年度 不採択案件 18件 (昨年度は2件)

(5) 助成決定後のサポート

①交流会の開催

5月20日、助成団体が集う「市民活動交流会」を4年ぶりに全団体が一堂に会して開催し、情報交換や、地域課題の共有化を行いました。

②相談や訪問の実施

運営や、報告用紙の書き方などの相談に個別に対応します。助成団体を訪問し、助成団体のとらえている地域課題を共有したり、課題解決に向けて困りごとの相談に応じます。

③ともしび通信や情報の提供

年4回発行の「ともしび通信」とともに、他の助成金情報、研修会の案内など、助成団体に役立つ情報を送付していきます。

2. 社会的課題解決にチャレンジする団体への申請募集と選考

(1) やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト

財団と志を同じくする企業から寄付金をいただき、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は2022年度、17件の助成を実施しました。

2023年度は20社からの寄付総額230万円、活動支援準備金(2021年度コープこうべからの寄付)から270万円を合わせ、500万円の予算で助成をします。

2021年度から助成予算を1,000万円に拡大し、2年間、コロナの影響を受けた方々への支援活動への助成をして参りましたが、申請団体と賛同企業様、財団で本来の社会的課題を深掘りし、解決に向けての手がかりを考えていきたいとの思いから、地域の課題解決事業分野に絞って、すでに2月から募集を開始し、52団体から申請がありました。選考は、申請書による1次選考ののち、7月7日に選考委員との対話形式による2次選考を行います。2次選考終了後、選考委員(財団の評議員や、学識者、賛同企業などの皆さん)に助成団体を選出、決定していただきます。

また、この助成の趣旨や選考についてご理解を得た上で申請をいただくため、説明会を開催し、27団体の参加がありました。

このプロジェクトで助成する団体は法人格の有無を問わないものとし、社会的課題解決にチャレンジする団体に門戸を広げます。

●助成予算総額 500万円

地域の課題解決事業分野 1団体/上限 50万円

3. 高校生の心豊かな育ちとボランティア人材の育成支援

(1) 高校生がボランティア活動を通して心豊かに育ち、次代の地域の担い手になることを願い「高校生のボランティア顕彰」を実施

第3次中期計画の中で、若い世代のボランティア人材の養成が計画の柱の一つとして位置付けられました。これに基づき、2019年度から「高校生のボランティア顕彰」をスタートしています。2021年度は13校、2022年度は14校を顕彰しました。2023年度もさらに多くの学校の参加をめざし、募集します。

決定後には顕彰校の交流会を開催し、互いに認め合う場をつくります。

●顕彰予算 60万円

4. 交流や学びの場の提供

(1) 連携して地域課題を解決するネットワークづくり

財団の持つ中間組織的機能を活かし、コープこうべの地区本部と地域内で活動するボランティア団体や地域団体、社協、専門職などとの交流や学習の場をつくります。互いに連携・協働して地域の様々なくらしの課題解決に取り組む中でネットワークづくりを進め、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担います。

(2) コープこうべ地区本部のボランティアや社会的課題の学びを支援

下記の2つの柱を基に地区本部が開催する講座や学習会を支援します。

- ①ボランティア活動の裾野を広げる講座
- ②社会的課題を共有し解決に向けて取り組む学習会

5. 2024年度「ボランティア活動助成」に向けて

(1) 2024年度の「ボランティア活動助成」の考え方

2024年度も多くの団体から申請をいただくことを想定し、また、新しい活動団体に光を当て、育てたいとの思いから、発足5年以内の団体を優先的に助成する枠を設けたいと考えています。継続申請は、財団の助成の特徴ではありますが、新しい団体にも活動資金が回るよう、自立の可能性がある団体には丁寧に自立を促します。

この新しい団体に対する助成枠については、運営委員会に諮った上で2024年度ボランティア活動助成に組み込んでいきたいと考えています。

(2) 2024年度の「ボランティア活動助成」 説明会の実施と選考

2024年度助成に向け、「ボランティア活動助成」の申請に先立ち、2023年度と同じ10会場で説明会を行い、オンラインでも開催する予定です。さらに、コープこうべの店舗・事業所の設定を増やし、地域の団体との交流を進めるため各地区に打診中です。

また、引き続き、第7地区本部と連携し、西播磨地域で説明会を行うなど遠隔地にも対応します。

例年どおり10月より申請の受付を開始し、12月下旬締切後、3月の助成検討委員会で2024年度助成案を作成します。

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます

1. 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ともしび通信の発行

同媒体は、当財団の機関紙として、3カ月ごとに、約3,000部発行し、ホームページでも公開しています。送付先は、賛助会員、寄付者、助成団体のほか、コープ店、中間支援組織、行政、社協、企業などですが、コープ店、中間支援組織や行政へは複数枚送付して、地域の人々にも配布いただいています。

2023年度もさらに内容の充実を図り、地域に財団の活動への共感を広げます。

2. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

- (1) コープ委員会の学習会、店舗で開催される学習会「レインボースクール」に財団についてのテーマでエントリーし、地域での学習会開催につなげます。
- (2) 広報室と連携し、ラジオ「コープス・コープ」の月1回の放送を活用します。

Ⅲ. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

財団に助成を求める団体は増加しており、今後ますます資金調達の必要性が高まっています。低金利の続く中、債券運用はますます厳しい状況ですが、財団のミッションを果たすために、債券運用以外の資金調達を強化していきます。

1. 資金調達の強化

(1) 2023年度 賛助会費・寄付・募金の目標

		2023年度目標	2022年度実績
賛助会費	個人	700,000	690,000
	法人	1,200,000	1,250,000
賛助会費合計		1,900,000	1,940,000
寄付	個人	1,000,000	996,366
	お香典にかえて	250,000	160,000
	法人（やさしさ）	2,300,000	2,300,000
	法人（上記以外）		100,000
	まいくる	1,100,000	1,069,680
	つり銭チャリティー	450,000	467,293
寄付合計		5,100,000	5,093,339
募金	集中募金	6,500,000	6,345,228
	めーむポイント	2,400,000	2,299,900
	きしゃぼん	600,000	677,197
	切手・はがき	50,000	83,129
	その他	50,000	127,547
募金合計		9,600,000	9,533,001
総合計		16,600,000	16,566,340

(2) 法人からの寄付および法人賛助会員の募集の強化

「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、初年度賛同企業7社、寄付金額100万円からスタートしましたが、現在は20企業から総額230万円の寄付を得ています。2023年度もコープ協力会加盟会社などに、賛同企業とともに新規の法人賛助会員への呼びかけも行います。

(3) 集中募金を6月と10月に実施

2023年度も6月と10月の年2回コープこうべの地域活動推進部が窓口になり、募金の呼びかけを行っていただきます。宅配の「めーむ」に折り込まれるチラシで財団の活動を丁寧に広報し、コープこうべの組合員・職員の財団への理解を深める良い機会として取り組みます。

(4) 「古本募金 きしゃぼん」のさらなる拡大

2016年7月にスタートした「古本募金 きしゃぼん」は財団らしい取り組みとして定着し、2022年度は約68万円の募金になりました。コープの店舗等21カ所に古本回収ボックスを設置しています。

2023年度も、さらに寄付額の増加を目指して呼びかけを行います。

(5) 未使用切手、書き損じハガキの回収

コープ委員向けに未使用切手、書き損じハガキの回収を定期的に呼びかけ、使用可能な切手などに交換しています。2023年度も同様の回収の呼びかけを実施します。

(6) 基本財産の運用

「第16回利付国債(20年)」3,460万円が2022年3月に償還され、いったん預け金としています。先行き不透明な状況が続く中、ますます買い替えが難しくなることが予想されますが、当面は証券会社からの情報収集に努めます。

2. 事務局機能の強化

(1) 財団スタッフの人材育成

財団のスタッフとして、ボランティアコーディネータ力や多様な団体どうしをつなぐネットワークづくりのスキルの向上が求められています。内外の研修へ参加したり、助成団体に寄り添い、伴走しながら支援することで、その手法を学びます。

(2) 財団スタッフを増員

コロナ禍の先が見通しづらい状況下で、新規採用を控えていましたが、2023年度は、スタッフが働きやすい環境を整えるとともに、助成事業をより充実させることを目指して1～2名の採用を予定しています。